

## 愛知県山崎川に遡上するアユ

間野 静雄<sup>(1)(3)</sup> 大矢 美紀<sup>(2)</sup> 鶴飼 普<sup>(3)</sup><sup>(1)</sup> 川の研究室 〒461-0031 愛知県名古屋市東区明倫町2-41-1302<sup>(2)</sup> 山崎川グリーンマップ 〒467-0008 名古屋市瑞穂区村上町1-22-1<sup>(3)</sup> 矢田・庄内川をきれいにする会 〒463-0080 愛知県名古屋市守山区川西一丁目1304**Amphidromous ayu *Plecoglossus altivelis altivelis* in the Yamazaki River, Aichi Prefecture, Japan.**Shizuo AINO<sup>(1)(3)</sup> Miki OYA<sup>(2)</sup> Futoshi UKAI<sup>(3)</sup><sup>(1)</sup> Kawanokenkyushitsu, 2-41-1302 Meirin-cho, Higashi-ku, Nagoya, Aichi 461-0031, Japan<sup>(2)</sup> Yamazakigawa Green Map, 1-22-1 Murakami-cho, Mizuho-ku, Nagoya, Aichi 467-0008, Japan<sup>(3)</sup> Voluntary Group Yada-Shounaigawaokireinisurukai, 1-1304 Kawanishi, Moriyama-ku, Nagoya, Aichi 463-0080, Japan

Correspondence:

Shizuo AINO E-mail: shi-zuonia@am.em-net.ne.jp

## 序文

アユ *Plecoglossus altivelis altivelis* は春に海から河川に遡上し、夏は河川で河床の付着藻類を食べて成長する。秋には河川中下流域で産卵し、一生を終える。孵化した仔魚は直ちに降海し、冬を海で過ごす。本種は名古屋市において絶滅危惧Ⅱ類に指定されている（名古屋市、2015）。伊勢湾奥部の名古屋港に流入する河川では庄内川水系（間野ほか、2019）や天白川（間野・鶴飼、2019）にアユが遡上していることが報告されている。山崎川でもアユが確認されているが（名古屋市、2016；山崎川グリーンマップ、2017）、体サイズや生息状況の経時変化など、詳しい情報は明らかにされていない。山崎川において春から夏にかけてアユの生息を調査したので報告する。

## 材料および方法

山崎川は名古屋市千種区の猫ヶ洞池を水源とし、名古屋の市街地を流れ、名古屋港に流入する流路延長約12.4 kmの河川である（図1）。河口から約5.6 kmの新瑞橋付近までが感潮域とされており、約11.3～12.4 kmの区間は一部が暗渠となったコンクリート三面張に整備さ

れている（名古屋市、2010）。調査地は河口から約6.3 kmの山下橋から約6.9 kmの左右田橋間とし（図2）、投網（目合26節）を5～7回投げ、アユを採捕した。2018年は4月26日、5月22日、2019年は5月24日、6月13日、7月29日に調査を実施し、採捕した個体の標準体長（以下、体長）を測定した。

## 結果

2018年は4月26日に1個体（体長5.7 cm）採捕したが、5月22日には採捕されなかった。2019年は5月24日に5個体採捕したが、採捕後に4個体がバケツから逃げ出したため、1個体のみ体長を測定した（体長5.5 cm）。逃げ出した4個体の体長は測定した個体と同程度であった。6月13日にも2個体（体長5.9 cmと6.4 cm）採捕できたが、7月29日には採捕されなかった。

## 考察

山崎川にアユが遡上していることを確認できたが、個体数は極めて少ないと考えられる。また、いずれの年もアユが採捕されたのは本種の遡上時期に限られた。採捕された個体の体長は5.5～6.4 cmと小さかったことから、

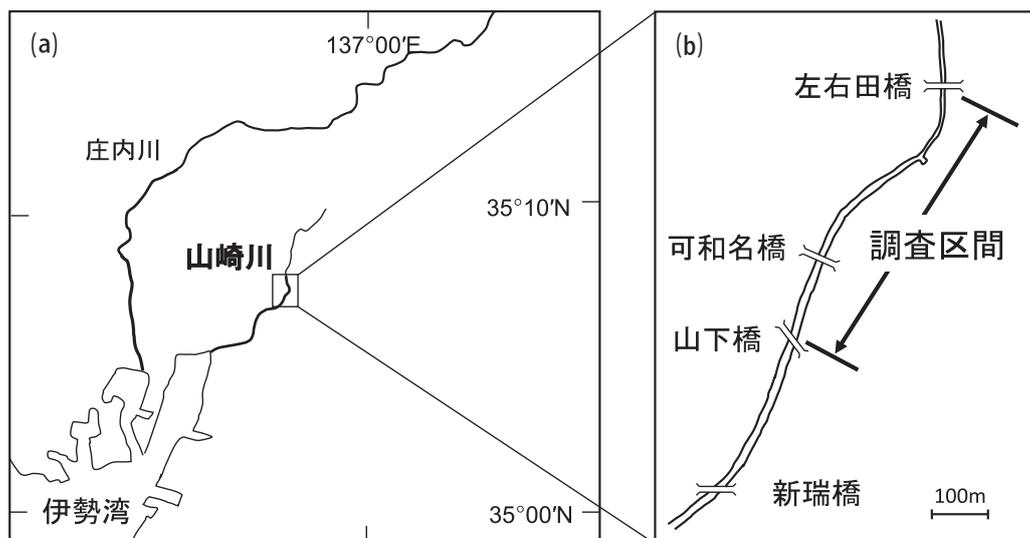


図1. (a)山崎川の位置と(b)調査区間.



図2. 山下橋から上流の遠景.

海から遡上して間もない個体と推定される。このことから、山崎川にアユが遡上しているが、夏場まで生息できる環境に乏しいと考えられる。調査を行った区間は両岸がコンクリート護岸され、河道は単調でごく浅い平瀬が続いている。また、河床は谷田・竹門の簡便階級（竹門, 1995）による砂利や小さな石がほとんどで、大きな石や巨石はほとんど見られない。アユの生息にとっての重要な環境要因の一つとして、巨石の多さが指摘されている（坪井・高木, 2016）。これは巨石がアユの餌料となる藻類の付着面積を広げるだけでなく、下流側に水流の変化や安息場所を作るためと考えられている（阿部, 2012）。山崎川をアユが生息できる環境にするためには

平坦化した河床に変化を付ける、河道に大きな石を増やす、などの環境改善が必要と思われる。また、調査を行った2018年と2019年にはアユの遡上時期に調査地より下流の落合橋（河口から約5.9 km）から山下橋の間で河床ブロックや護岸の工事が行われており、アユの遡上に影響を与えていた可能性がある。したがって、山崎川における本種の生息状況については今後も継続的に、より広範囲を調査をしてみる必要がある。

#### 謝辞

名古屋市長政土木局から山崎川における生き物の調査資料について情報提供いただいた。また、調査は愛知県の特別採捕許可を得て実施した。

#### 引用文献

- 阿部信一郎. 2012. でこぼこした河床と平滑な河床に対するアユの生息場所選択. 水産増殖, 60(4): 445-449.
- 間野静雄・鶴飼 普. 2019. 愛知県天白川に遡上するアユ, なごやの生物多様性, 6: 89-90.
- 間野静雄・池田正明・鶴飼 普. 2019. 愛知県庄内川の小田井堰堤魚道を遡上する魚類. なごやの生物多様性, 6: 23-28.
- 名古屋市. 2010. 二級河川山崎川水系河川整備計画（原案）. 名古屋市, 50pp.
- 名古屋市. 2015. レッドデータブックなごや2015動物編.

- 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課，名古屋，504pp.
- 名古屋市，2016. 市内河川の生き物と水環境. 名古屋市緑政土木局河川部河川計画課，26pp.
- 竹門康弘，1995. 水域の棲み場所を考える. 竹門康弘・谷田一三・玉置昭夫・向井宏・川端善一郎，棲み場所の生態学，pp.11-66. 平凡社，東京.
- 坪井潤一・高木優也，2016. アユの生息にとって重要な環境要因の検討. 日本水産学会誌，82(1): 12-17.
- 山崎川グリーンマップ，2017. 山崎川生きもの図鑑. 山崎川グリーンマップ，名古屋，25pp.